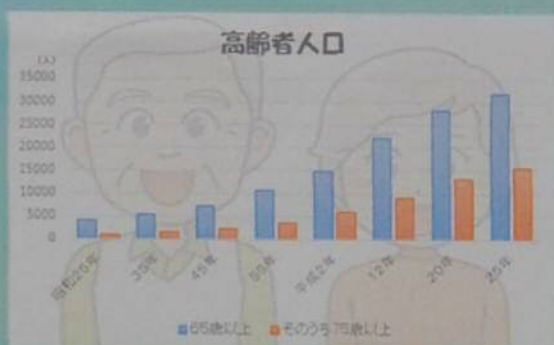


# 2025年問題 ~認知症患者を減らすためには?~

## 2025年問題とは? →超高齢化社会のこと。

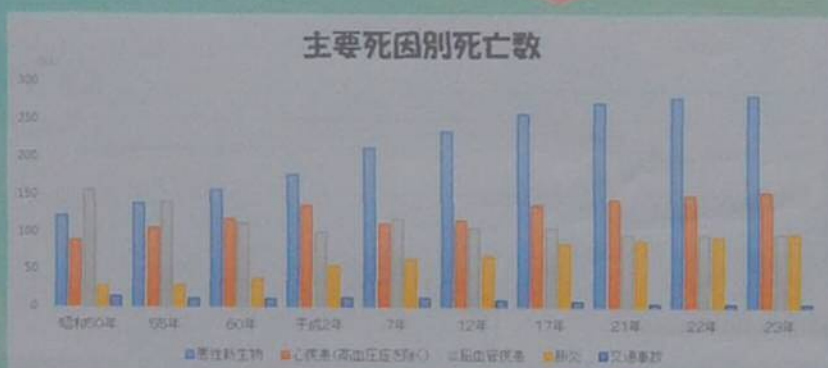
2025年に団塊の世代(約800万人)が75歳以上(後期高齢者)になること、これは戦後のベビーブーム(1946年~49年)が関係している。高齢者人口は約3500万人になるだろうと予測されている。



これまでの高齢化問題  
→高齢化の進展の「速さ」  
平成27年以降の高齢化問題  
→高齢化率の「高さ」

## 平均寿命、高齢者人口が増えた理由

### 医療の改善

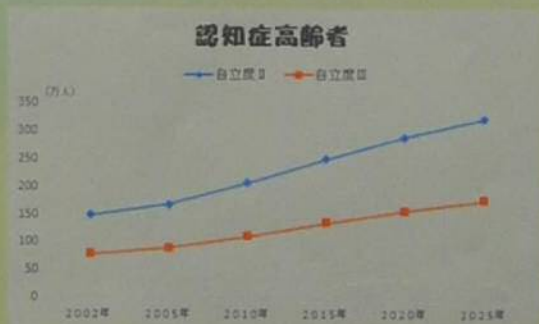


しかし!

高齢者人口が増えることによって  
介護・医療費等社会保障費が急増すると予測されている。



また、認知症高齢者が約150万人(2002年)から約320万人(2025年)に急増すると予測されている。

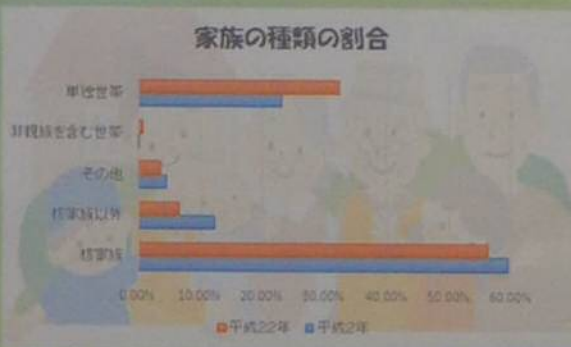


自立度Ⅰ: 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少あっても、誰かが介護していれば自立できる。  
自立度Ⅱ: 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがほとんど見られ、介護を必要とする。

財源問題が更に深刻になる  
税金がまた更に増加する可能性がある  
認知症患者が増えることで介護が困難になる

## 2025年対策としてまずは...

認知症患者を減らすこと。  
そのための一つの対策として、高齢者の単独世帯を減らし常に高齢者と娘や息子などがいるということがあげられる。で認知症を予防することができる、という対策があげられる。



年々単独世帯が増加している  
→認知症患者が増える可能性がある

そのうち、  
65歳以上の  
世帯構造は?

単独世帯の高齢者が昭和61年と比べ平成26年は約3倍  
三世帯世帯の高齢者は年々減少している。



## これからの課題

2025年は私たちの世代が背負っていく時代。  
2025年問題を他人事のように考えず、今のうちからきちんと考えておくことが大切。また、将来できるだけ単独世帯にならないようにして、もし可能ならば三世帯世帯で住めるようにしとほうがよい。  
そして、2025年問題を少しでも解決できるようにしよう。

→単独世帯の高齢者を少なくすることが必要!